



やる気 根元

学校教育目標：心豊かでたくましく

心身ともに健やかな鳴鼓っ子の育成

時津町立鳴鼓小学校

学校だより 第12号

令和3年1月29日

文責：校長 村井 宏之

成長に気付く子！



三学期が始まり、あつという間に、ひと月が経ちました。子供たちは寒さに負けず、昼休みには運動場で元気に、鬼ごっこやドッジボール、サッカーなどをして遊んでいます。鳴鼓小には、子供たちの笑顔があふれています。

先日、長崎県内で梅の花の開花を伝えるニュースが流れました。鳴鼓小の梅は蕾のまま、まだまだ力を蓄えているようです。梅の花は一斉に咲くのではなく、同じ枝にあっても順番に花が開いていきます。完全に開いた花の隣の枝には、まだ固い蕾があります。対象的なのは桜です。特にソメイヨシノは人が花を見るために改良された品種のため、一斉に咲き始め、しかも下を向いて開花します。また、同じ遺伝子をもつため、同じ場所にある木は、ほぼ同時に満開になるそうです。

梅の花の開花時期が異なるように、子供たちの成長も一人一人みな違ってきます。日本の学校は年齢主義を取るため、学年は同年齢の子どもたちで構成されます。入学当初は誕生日による成長の違いがありま

す。年齢が進むと、身体的・精神的成長、得意なこと、運動能力など、違いが顕著になってきます。でも、違いがあるのは「あたり前のこと」です。桜のように「みんな同じ」は、逆に不自然なことです。かつての学校は、違いを解消することに目が向けられていました。現代の学校は、違いは個性と考え、個を伸ばすことに力を入れていきます。しかし、子供たち自身は、成長とともに自分と友達を比較するようになり、違いを意識するようになります。自分できないことや友達との違いに不安を抱きま

す。そのことが自らを奮起させることもあります。そのことが劣等感につながる場合もあります。でも、それは単なる思い込みです。他者と違うことは自然なことです。それよりも自分ができたこと、できるようになったことに目を向けさせていくことが大切です。そのことが劣等感を自己有能感に変えていきます。自分の成長に気付くようになることが、真の成長となります。

今年度も残り二カ月、次の学年や中学校への助走が始まっています。人は誰でも自分や他者のできないことに注意が向きがちです。それよりも、自らを客観的に振り返り、自分の成長に気付く力が大切です。それは他者との比較ではなく、過去の自分との比較です。この能力こそ、未来社会の形成者となる子供たちにとって大切な力となります。

二月の主な行事

- 二日(火) 鳴北中学校入学説明会(六年)
- 五日(金) チャレンジ集会
- 八日(月) 代表委員会
- 九日(火) 社会科見学(四年)
- 十日(水) 入学説明会
- 十五日～二十一日
- メディアOFF週間
- 十二日～十九日

- 二十二日(月) 授業参観・懇談会・校内図工展
- 二十四日(水) クラブ見学
- 二十六日(金) 集団下校(六校時カット)
- 送別集会



授業参観について

二月十二日から十九日、学年ごとに授業参観、懇談会を行います。例年十一月に行う「鳴鼓っ子発表会」が、今年度は実施できませんでしたので、この授業参観を子供たちの発表の場と位置付けて開催します。コロナ禍にあり、様々な制約の中での発表となりますが、ぜひ子供たちの成長の姿をみてあげてください。

※検温、マスクの着用、手指の消毒等、感染症防止へのご協力をお願いいたします。